

文化庁月報



1985-11

No.206

【表紙】

重要文化財
木造阿弥陀如来立像
解説は30ページ

題デザイン・桑山弥三郎

カット・林美紀子

もくじ

特集：文化財保護法制定35年

文化財保護と歩んで35年(1)

関野 克 4

産声時代の文化財保護(1)

森田 孝 8

法隆寺昭和太修理の貢献

浅野 清 10

・町並紹介シリーズ ⑦歴史を活かす町づくり 12

⑧内子・塩飽本島町笠島 14

報 告

- ・特色ある地域文化の振興に向けて
—昭和60年度文化振興会議報告— 16
- ・著作権審議会第7小委員会
(データベース及びニューメディア関係)
報告書について 18
- ・ストックホルム・東アジア博物館に
おける「日本陶磁名品展」 20

文化庁ニュース

- ・昭和60年度文化勲章受章者、文化功労者
決定 22
- ・昭和60年秋の褒章受章者決まる 23
- ・昭和60年秋の勲章受章者決まる 24
- ・昭和60年度地域文化功労者表彰式行わる 24

- ・地域文化活動紹介シリーズ②⑨ 広島県・呉市 27
- ・文化庁行事報告及び予定 30
- ・国立劇場ニュース 31

文化財保護と歩んで三十五年(1)



関野 克

文化財の概念の拡大

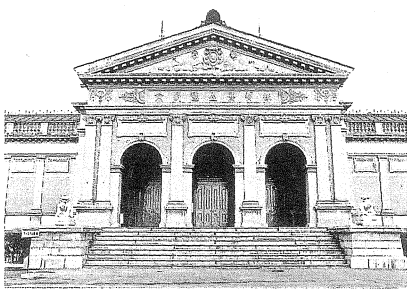
日本の文化財保護行政は、単一法律、単一行政機構で教育委員会を通じ、むしろ行政指導型で強力に出発し、訓示的、啓蒙的でもあったので、国民への浸透は早く、文化財という言葉が、これ程普及している国は珍しいと思われる程である。ユネスコは日本の文化財保護法が総合的であるところから、加盟国の手本や参考に供した経緯もあつたと聞いた。それだけに罰則が軽い、歯が無いとも批評されている。文化財という言葉は西洋で、學術用語又は法律用語として、恐らく戦後に使用されるようになったと思われ。ユネスコ憲章では人類の遺産としており、その後の国際規約の中で、文化遺産と自然遺産とに分けている。また米国では建国二百年以降、日本の文化財保存に相当する言葉は歴史保存である。文化財は経済用語の生産財に対応する言葉であるとも聞いたことがある。遺産や歴史の中に時間を感じ取れるが、財だけでは物足りないと思う。この二十年以来、過去、現在、未来の時の流れの概念が強く取り入れられて、「現在と未来の過去である」との警句、「過去のための未来」という保存原理が海外から聞かれた。更に文化財の保護の心はヒューマニズムに根差しているといわれ、人類の遺産という言葉に文化財の保護の心を感じ得ることができ、文化財を法律用語だけに留めず、その保護の心の豊かな発展が望まれる。

米の建造物の単独指定に加えて、建造物群の保存が推進された。その背景としてユネスコがその勧告の中で、保存の対象が従来記念物と地跡のみであったところを、建造物群を加えて、記念物、建造物群、地跡とした経緯があつた。

大阪万博の年は公害立法の集中的に行われた国会の年でもあつたが、この年京都の会場でユネスコによって、奈良・京都についての都市計画からみた歴史的地域の保全の国際会議が開催された。これが日本の戦後の都市環境保全の中での歴史的地域の保存の急務であることの警鐘となつた。昭和五十年の文化財保護法の改訂に際して伝統的建造物群の保存の章が設けられた。これと同時に建造物の重要文化財の指定に伴ってその敷地も加えることが可能となつた。民家の屋敷全体が土地とともに保護される扉が開かれた。これは将来社寺にも及ぶべき重要な可能性が潜在している。

美術工芸品の保存と国立博物館

文化庁に所属する国立の博物館は、東京・京都・奈良の三館で、ともに宮内省所管以来の長い歴史をもっている。東京国立博物館は、関東大震災で失った本館を昭和初年に近代建築として再建した一級の博物館で、表慶館は、明治建築として重要文化財に指定された。戦後法隆寺宝物館、東洋館を順次新設し、創立百年記念として収蔵庫を加え、上野公園に良好な環境を形成して、日本を代表する美術博物館として位置づけられている。京都国立博物館は東山を背景に豊国神社に隣接し、その本館は明治建築として重要文化財に指定されて、戦後の新館とともに平安文化を中心とする博物館と位置付けられ、近年文化財修理所を併置している。ここは美術工芸品の保存技術の保存を軸に、絵画、書跡、あるいは仏像等の最高の表装と仏像修理の本拠としている。奈良国立博物館は仏教文化を主題として、本館は明治建築で重要文化財に指定されているが新館の建設を終えた。



旧帝国京都博物館 正面玄関

博物館での文化財の収蔵・展示に関して十分な屋内環境保存の管理には、温湿度、採光、照明から空気中の有害ガス、微生物、塵埃の除去が不可欠で、これがための科学研究は、東京国立文化財研究所の保存科学部の協力を得ている。また公開には美術工芸品の梱包・輸送・開梱・展示、更にその逆の手順を経ることと

この館内で毎年正倉院御物の展示も行われている。また重要文化財旧奈良県物産陳列所は、奈良国立文化財研究所の元の本館であつたが、博物館の仏教美術資料研究センターとして現在改装中である。特別史跡奈良公園の中にあつてよい環境を形成している。

以上三館いずれも国有国宝重要文化財を中心に社寺等所有者からの寄託品を収蔵しており、企画展示と常設展示がなされ、それに必要な研究と調査が行われている。

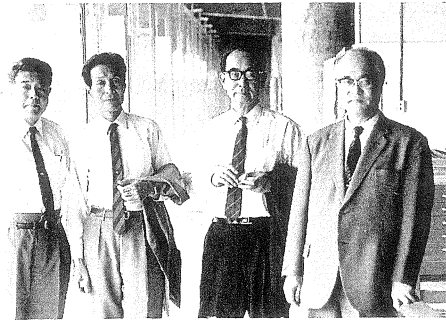
一方、文化庁は社寺等の国宝重要文化財をいれる耐震耐火構造の収蔵庫や防災施設の国庫補助を行つてきている。国宝重要文化財の公開は公私立博物館の施設の整つたものについて許可を与えているが、有名な特定文化財に集中する傾向が強いので、保存状態に応じて公開を制限する基準が作られている。なおデパートで専用展示室が設備され、いわゆるデパート展が流行する傾向を生じたが、デパートでの火災の事例から国宝重要文化財については出品を見合わせる措置が講ぜられて今日に及んでいる。

また、文化財の定義で、記念物という言葉は、法律用語として、保護法の中で使用する以上誤りはないのであるが、西洋のモニュメントと比較すると撞着を感じる。英語のモニュメントは狭義には建造物を指しているし、仏語では、文化財建造物はモニュマン・イストリクすなわち歴史記念物である。史跡と考古学遺跡はサイトに属している。サイトは日本語では地跡と訳されるけれどもなじみが薄い。文化財保護法によれば、建造物是有形文化財として、建造物以外の動産文化財である美術工芸品と同じ範疇に属しているが、建造物は元来土地に密着した記念物であるのである。ユネスコでダイフク博士は、理論的に文化財を可動文化財と不動文化財に分けている。美術工芸品は前者、建造物は史跡名勝記念物とともに後者に属する。可動文化財財対不動文化財では行政上の立場が根本的に異なってくる。前者は博物館・古文書館・資料館と密接しており、後者は自然並びに都市、集落の環境と一体的のものである。もともと可動文化財を保存展示する博物館等の施設は不動文化財として取り扱うことができる。歴史建造物の博物館への再利用はその一例である。

なるので、この方面の保存科学・技術上の研究も発展した。

我が国の文化財の保存科学研究の発祥は直接的には戦後の国立博物館保存修理課の中に設けられた修理技術研究室が最初で、これが昭和二十七年東京国立文化財研究所の保存科学部に発展、更に修復技術部を加えた。鎌倉大仏の頸部の補強と仏像全体の免震工事に最新の科学技術を活用し、同位元素によるガンマ線透視、立体写真測量による仏像の図化、強化プラスチックによる補強等が始めて開発された。飛鳥の高松塚古墳石室全体の保存施設、壁画の修復についても協力している。

また博物館近代化と公開の重要問題として、将来に備えて、東京国立文化財研究所は創立以来日本・東洋・西洋の美術史の研究を行うとともに、美術研究の資料情報センターを任務としてきた関係から昭和五十三年に情報資料部を設置した



大阪万博美術館にて 昭和43年開館協力者に加って
写真左より、坂元正典氏(大阪万博美術館次長)、登石健三氏(東京国立文化財研究所保存科学部物理研究室長)、故松下隆章氏(奈良国立文化財研究所長)、筆者(東京国立文化財研究所長)※()内は当時の役職
将来に期待される。国宝重要文化財である美術工芸品

等の国外展示はサンフランシスコでの平和条約締結時に行われたのが最初で、その後欧州国宝巡廻展等頻繁に実施され、国際親善と国民相互理解に役立っている。東京国立文化財研究所の協力によって輸送時の密閉梱包の湿度自動調節の方法が開発されたし、大阪万博の美術館内の展示に我が国の保存科学は国際的責任を果たすことができた。更に日米文化交流会議(CULCON)の分科会で、日米相互の交換展示の場合の文化財保存条件の基準が作成されたことは大きな前進であった。

これより先、文化財保存科学の研究に関し独り美術工芸品にとどまらず、建造物及び遺跡をも含めて、ユネスコが国際政府機関として、ローマに文化財の保存及び修復についての科学研究センター(ICCRROM)を設置し、日本の参加が求められていたが、昭和四十二年これに加入し、以後理事を出してきている。中堅保存技術者の養成講習を組織しており、文化庁の美術工芸・建造物関係の若手技術者が毎年参加している。

ユネスコはICCRROMとともに各国にミッションの派遣を行っているので、高松塚古墳石室壁画の保存等に応援を得て適切な処置が講ぜられた。また東京国立文化財研究所は、近年引続いて文化財の科学的保存についての国際シンポジウムを、小規模ではあるが、毎年開催を実施して、国際共同研究に資している。極東及び東南アジア諸国の文化財の建造物・遺跡を含めて今後の保存に役立つことが期待される。

(以下、次号につづく)

関野 克(せきの・まさる)

明治42年、東京生まれ。嗣文化財研究所長。現在、博物館明治村館長、東京大学名誉教授、文化財保護審議会委員。

国立劇場 ニューズ

十二月歌舞伎公演(大劇場)

並木宗輔 作

一谷嫩軍記

一幕二場

長谷川伸 作

村上元三 演出

一本刀土俵入

二幕五場

12月2日(月) 26日(木)

十二月歌舞伎公演は、「一谷嫩軍記」と「一本刀土俵入」の二本を採りあげます。

古典歌舞伎の時代物の代表作である「一谷」を花形俳優中心の撥刺とした演技で、新歌舞伎の世話物の傑作である「一本刀」をベテラン俳優の円熟した滋味溢れる芸で、それぞれ存分に楽しんでいただける今回の公演は、年末にふさわしい賑やかな舞台となるにちがいありません。

「一谷嫩軍記」は全五段の義太夫狂言で、その内三段目後半の「熊谷陣屋」が最もよく上演されますが、今回は二段目前半の「陣門・組討」と一般に呼ばれている場面を選んで採りあげます。雄大な紺碧の海を背景に描かれる、源平の戦いの秘話ともいふべき物語で、重厚で情感溢れる美しい舞台や子役を使っている「遠見」の趣向など目でも耳でも楽しめる歌舞伎の醍醐味を満喫していただけるでしょう。また、幸四郎・勘九郎・藤十郎というトリオによる清新な配役も、戦国の若武者の悲哀を更

に際立たせてくれるものと期待されます。(あらすじ)

熊谷直実の一子小次郎は初陣に手傷を負い父に救われます。また、直実は平家の若武者を組伏せしますが、それを平敦盛と知り救おうとします。しかし、平山季重に見咎められ止むを得ず首を打ちます。平山に横恋慕され負傷した敦盛の許婚・玉織姫も、敦盛の死を知って息絶えてしまい、直実は世の無常を感じつつ「勝どき」の声を挙げるのです。



勘三郎の茂兵衛

「一本刀土俵入」は長谷川伸の名作として、歌舞伎以外の演劇・映画等でもお馴染みの作品です。勘三郎の名人芸、茂兵衛と今回初のコンビを組む梅幸のお話との顔合わせは、芝居好きには見逃せません。切々たる叙情と哀感を見事に男の意地と夢を描ききったこの作品の魅力を、十分に味わっていただきたいと思えます。

(あらすじ)
取的の駒形茂兵衛は、取手の宿の酌婦お萬と出会って恩義を受け、立派な横綱となることを誓います。十年後、

茂兵衛は博徒として有名になり取手を再訪しました。お萬は彫師の辰三郎と娘との生活を送っていますが、辰三郎は波一里儀十一味に追われていました。茂兵衛は一味からお萬親子三人を逃がしてやり、その後姿に向け「これが恩返し、その土俵入りだ」と深々と頭を下げるのでした。

●その他の公演(12月)

■舞踊・邦楽公演(小劇場)

明日をにう新進の

舞踊・邦楽鑑賞会

二人禿・一谷嫩軍記

10日・22日・5時

(土・日のみ)

12時・5時

文楽鑑賞教室(小劇場)

解説 壺坂雪嶺記

10日・20日・11時・2時

(14日・15日を除く)

演芸(演芸場)

上席1日・10日・1時

土曜のみ1

中席11日・20日・1時

(時・5時半)

花形若手演芸会

21日・1時

国立名人会

22日・1時

能・楽(千駄ヶ谷・能楽堂)

定例公演

御塗附・絵馬

4日・1時

御福の神・満仲

20日・6時半

普及公演

御婢・草子洗小町

14日・1時半

特別公演

野宮・御沓々頭・春日龍神22日・1時

詳細につきましては左記へお問合せ下さい。

〇三二一六五七四一(大劇場・小劇場・演芸場公演)

〇六二二二二五三二(文楽劇場公演)

編集後記

○去る11月4日、法隆寺・国宝・重文の昭和修理が完成し、慶讃法要が行われました。

○折しも、文化財保護法がその制定以来、今年で35年を迎えました。その間の先人の苦勞は、関野、森田、浅野三先生の論文からしのばれます。

○関野先生ご指摘のとおり、「文化財を法律用語に留めず、その保護の心の豊かな発展」をめざして、これからの文化財保護行政を進めていきたいと思はれます。単に、文化財の保護に留まるのではなく、それらをいかに活用していくかが、今後の課題といえるでしょう。

○次号も引き続き、文化財保護法について特集をくんでおります。ご期待ください。(S)

広告の問合せ・申込み先

TEL 〇三二二八二二四(代表)

TEL 〇三二二八二二四(代表)

TEL 〇三二二八二二四(代表)

TEL 〇三二二八二二四(代表)

TEL 〇三二二八二二四(代表)

TEL 〇三二二八二二四(代表)

TEL 〇三二二八二二四(代表)

TEL 〇三二二八二二四(代表)

TEL 〇三二二八二二四(代表)

TEL 〇三二二八二二四(代表)

TEL 〇三二二八二二四(代表)

TEL 〇三二二八二二四(代表)

TEL 〇三二二八二二四(代表)

TEL 〇三二二八二二四(代表)

TEL 〇三二二八二二四(代表)

TEL 〇三二二八二二四(代表)

TEL 〇三二二八二二四(代表)

TEL 〇三二二八二二四(代表)

TEL 〇三二二八二二四(代表)

TEL 〇三二二八二二四(代表)

TEL 〇三二二八二二四(代表)

TEL 〇三二二八二二四(代表)

文化庁月報



1985-12

No. 207

【表紙】

重要文化財
筑前国嶋郡川辺里
大宝二年戸籍断簡 一幅
紙背千部法華経校帳断簡
国（奈良国立博物館保管）

解説は30ページ

題デザイン・桑山弥三郎

カット・林美紀子

もくじ

特集：文化財保護法制定35年

歴史資料の保存について	
児玉 幸多	4
産声時代の文化財保護（2）	
森田 孝	8
文化財保護と歩んで35年（2）	
関野 克	10

重要考古資料選定調査会について	13
-----------------	----

随 想

訪中雑記	濱田 隆	14
------	------	----

・町並紹介シリーズ⑨	神戸	16
・地域文化活動紹介シリーズ⑩	北海道常呂町	18

第5回近畿高等学校総合文化祭開催	21
------------------	----

文化庁ニュース

・日本芸術院会員の紹介	22
・史跡の指定等—文化財保護審議会の答申—	23
・重要文化財(建造物)の新指定	
—文化財保護審議会の答申—	24
・公立文化会館運営研究協議会開催さる	25
・昭和60年度文化財愛護全国研究集会	26
・昭和60年度文化財行政基礎講座	26
・指定文化財(美術工芸品)修理技術者講習会	27
の開催	27
・第19回現代美術選抜展	28

ドイツ民主共和国文化大臣が長官表敬	28
韓国報道関係者が長官表敬	28
文化庁企画・提供	
錢をもとめて 昭和61年1月放送予定	29
・文化庁行事報告及び予定	30
・国立劇場ニュース	31



倉敷市敷川畔伝建地区

民家と明治建築の重要文化財の調査と指定は、この両者が町並を形成する要素ともなり得るので、町並保存の前提ともなった。町並保存については、歴史的地域の保存のなかの建造物群を主体とするが、ユネスコの勧告にあり、昭和三十九年以降発展した新しい国際的な保存活動で、日本でも昭和五

内重要文化財に九件が指定されている。

史跡保存と考古学的発掘

史跡は戦前に聖地視され、指定地域内は、現状変更を認めない凍結保存を主旨としてきた。しかし戦後の公私開発事業が大量の環境破壊を進行させる中で、史跡への影響は無視できなくなった。観光が歴史ブームもあって盛んになると、道路の新設、拡張や駐車場の設置が行われ、史跡地に侵入することも多くな

た。また電鉄の車庫の建設計画に端を発し、保存運動が学者識者に奈良県の手で買上げが先行することができて解決した。しかも最大発掘調査が引きつづいて実施されて今日に及んでいる。地方の埋蔵文化財の発掘調査部も設置された。

して埋蔵文化財センターが奈良国立文化財研究所に付置され、

文化財保護と歩んで三十五年(2)

建造物の修理と民家・明治建築の保存

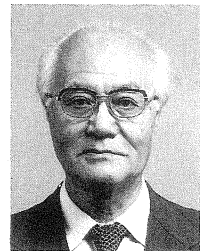
今秋は法隆寺の昭和修理が完了する時である。昭和九年に始められたこの大修理は、国の直営工事として文部省に法隆寺国宝保存事業部が置かれて出発した。姫路城も同時で、この国宝建造物は日本の古代と近世を代表する建造物の白眉だけに大事業であった。戦時中工事はほとんど休止したが、戦後再開し、まず法隆寺の五重塔、つづいて金堂が新たに発足した法隆寺国宝保存委員会によって修理完成となり、それ以後は奈良県教育委員会の管理下におかれ、伽藍全体の修理完成を目指した。その間に古代建造物の解体再組立てに当たって精密な調査が徹底的に一本一本の解体材について行われ、その結果に基づいて精緻な現状変更がなされた。ここに建造物解体復元の原理が確立し、以後の建造物修理に根本的な指針を与えたことは大書される。また防災工事のための地下発掘は考古学的に貴重な資料の提供となった。

一方、姫路城天守解体修理は大工事であったが昭和三十九年に完成した。大戦中に荒廃した国宝重要文化財建造物の修復はこの頃峠を越したが、東京オリンピック開催の年でもあり、高

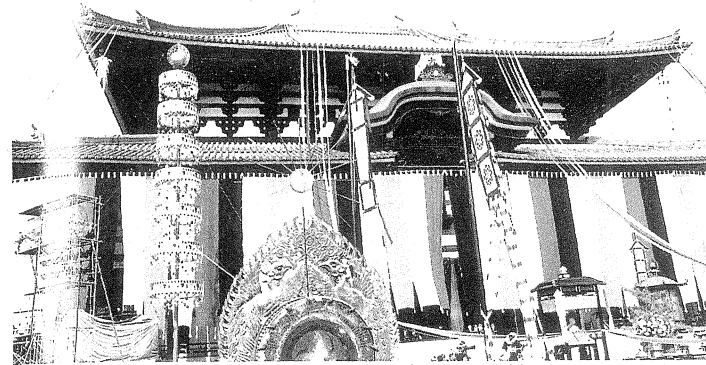
度成長の経済によって開発が文化財建造物を破壊する傾向を増長する年でもあった。一人我が国だけではなく国際的にみると国際記念物遺跡会議（ICOMOS）の誕生する年ともなった。また、明治四十年から大正二年まで行われた東大寺金堂（大仏殿）の修理も、屋根の弛緩により昭和四十八年から七年間にわたって再修理が行われたが、今回の修理では鉄骨による大梁屋根で覆われ、最新の建築技術の粋が見られたのは記憶に新しい（写真12頁）。

従来長いこと国宝重要文化財の修理については、各社寺等個の場合は、臨時に設置される修理委員会によって現場ごとに運営され、宮大工を含めて経験を有する建造物修理技術者が現場主任として常駐し、身分は不安定であった。これらのものもようやく高齢となり、後継者の養成が希求される状況となった。昭和四十六年財団法人文化財建造物保存技術協会が組織され、修理設計事務所として、また現場職員の本居としての役割をもち、同時に後継者の養成並びに職員の研修が行われることとなった。昭和五十一年「建造物修理」及び「建造物木工」が選定保存技術の保存団体として協会は国から認定を受けている。

戦後の新法による国宝の見直し作業と平行して早い時期に民家と明治建築の調査指定が発足している。しかし明治建築の開



関野 克



東大寺金堂（大仏殿屋根葺替工事竣工落慶）

考古学的発掘技術者の養成と再教育を行うことによって地方からの需要に答えた。今日では都道府県の関係職員も次第に充実されつつあり、隔世の観がある。福岡の大宰府跡、仙台の多賀城跡、福井の一乗谷朝倉遺跡、尾道の草戸千軒遺跡等中世都市遺跡も含めて広域発掘が発展した。縄文時代、弥生時代、古墳

時代の住居跡、館跡、官衙跡、寺院跡、古墳等数えるのに暇がない程であって、出土資料も膨大の数となつて、その収蔵施設と処理が問題として残されている。平城宮跡の考古学的発掘は最大規模のものであるとともに、出土品の処理、遺跡の整備についての研究と実施が同時に平行している。発掘の最も基本となる地表及び発掘面地図や出土物

の収積と分類格納も大規模に行われている。地図・実測図作製には写真測量とその図化を高度に活用しており、ことに木簡の多数発見についてはその水漬木材の合成樹脂による保存処理や凍結乾燥が考案され、文字記録の精緻な調査研究にも発展した。また遺跡に発見される礎石及び根石、あるいは掘立柱穴の配列や重複の考察から、建物の規模と建立時代の相対順序の解明、出土品の分析等極めて精緻な学術研究が、その報告書を高く重ね、日本の中心的存在となつている。又、美術史・建築史・歴史・考古・庭園等の学者及び専門家の学際的研究が調査会への参加として行われている。発掘を追って、発掘品の科学的研究とその保存

処置のため、大規模な装置も用意、試作され、大形木材出土物の合成樹脂滲漬のタンクも用意されている。極めて多数に上る出土品は登録分類され索引等の処理技術の開発も進行している。一方、遺跡の再生については、覆屋による露出保存、遺跡を埋めた土層上に実物大発掘面の模型を配置するとか、礎石・掘立柱の位置を示す植樹を配列するとか、種々工夫され、今後朱雀門の建立などの計画もある。もちろん建築の縮尺模型は既に幾つか製作されている。

国立奈良研究所は当初奈良七大大寺伽藍の研究に出発したが、今日では平城宮にとどまらず平城京全体について、工事の事前発掘に常に注意を払っているし、また伝統的建造物群の研究も今井町について行っている。平城宮跡内に発掘状況及び主要出土品の陳列室を有し、飛鳥資料館を付属している。研究所本館は近年平城宮跡外に道一つ隔てて県立病院を譲り受け、これを改装して近年移ったばかりである。

開野 克（せきの・まさる）明治42年、東京生まれ。同文化財研究所長。現在、博物館明治村館長、東京大学名誉教授、文化財保護審議会委員。

■初春歌舞伎公演（大劇場）
四世鶴屋南北作 利合幸二補綴
尾上松緑指導

天竺徳兵衛韓囀 一幕二場
「一心五界玉」より
戸部銀作脚本・演出
歌舞伎八番の内 囀

福森久助原作 河竹黙阿弥作
中村又五郎補綴
松竹梅雪囀 一幕
昭和61年1月3日（金）128日（火）
正月の国立劇場は、初春らしい華やかな演目が三本並ぶ。

天竺徳兵衛韓囀
通称「天徳」といわれている。初演は文化元年（一八〇四）七月の江戸河原崎座で、作者は四世鶴屋南北。主人公の徳兵衛は初世尾上松助が演じている。香羽屋系のこの伝統ある役は、昭和四十七年五月の当劇場で尾上松緑によって通して上演されたが、今回は子息の辰之助が初役に演ずる。宗観の邸と裏手水門の二場だけだが、屋台崩しから水門の墓の立廻りというこの芝居最高の見せ場を父から子へ伝わる型と共に、お楽しみいただきたいと思う。

（囀）
初春公演の国立でこのところ何年か連続して歌舞伎十八番の復活が果たされてきたが今年は「囀」の復活である。昨年に引き続きこの作品にも元

なにはなし かつうして残った元禄十二年中村座の初代市川団十郎初演による「囀」第一「一心五界玉」の評判記の数行の記述から全体の世界と趣向を想定し、同時代の近松門左衛門の説経浄瑠璃「甲賀三郎」からストーリーと人物を借りて甲賀三郎鬼神退治と、三郎を間にはさんで先妻と後妻がうわなり打ちをするという趣向が盛り込まれて、およそ一時間の所作事風な作品に仕上げる予定である。三郎に松緑、先妻に玉三郎、後妻に時蔵、三郎の兄太郎に富十郎といった配役で、明るく華やかな舞台になるであろう。



囀（うわなり）

＜松竹梅雪囀＞

福森久助の「其往恋江戸染」による吉祥院の「お土砂」の趣向と、河竹黙阿弥の「松竹梅雪囀」の櫓のお七の形振り合体して今回の上演本が成り立っている。「お七吉三物」という作品群があるが、今度のようないし方があるが、今度のようないし方がまじりボビニヤだらう。吉祥院で紅屋の長兵衛が砂をふりまいてみんなをグニャグニヤにするおかしみの場面が有名だが、初代吉右衛門、中村勘三郎（43年正月）と伝わってきたのだが、今回は松緑の初役。もちろん、櫓のお七は人形振りで定評の玉三郎のお七。吉

三には時蔵が扮し、若いコンビを組む。他に又五郎、田之助、半四郎等を通りに配し、軽い二番目世話物だが、厚い配役が得られて見ごたえのある芝居になるだろう。

●その他の公演（1月）
邦楽公演（小劇場）
邦楽鑑賞会 17日・6時 18日・2時
日本舞踊の流れ（小劇場）
愛の表現―様式と技法―
24日・6時 25日・2時

歌舞伎会（大劇場）
曾我経侠御所染他 25日・26日・6時
演芸（演芸場）
新春名人会 3日・8日・1時
中席 11日・20日・1時（土曜のみ）
国立名人会 25日・5時半
花形若手演芸会 26日・1時

能楽（千駄ヶ谷 能楽堂）
定例公演
御末広から二人静 8日・1時
御昆布壳・唐船 17日・6時半
普及公演
御翁御松様・養老 4日・1時半
狂言の会
夷毘沙門・無布施経 24日・6時半

文楽劇場（大阪日本橋）
文楽公演
七福神宝の入松・曲輪・輝他 24日・6時半
3日・26日・11時・4時

詳細につきましては左記へお問合せ下さい
○三十三（大劇場）
○三十三（小劇場）
○三十三（演芸場）
○三十三（能楽堂）
○三十三（文楽劇場）

編集後記

○昭和60年も、間もなく終わろうとしています。皆様にとってどんな一年でしたか。
○三浦長官が、この6月にヨーロッパを視察したのに引き続き、去る12月2日から6日まで韓国を訪問しました。
○また、今月号で紹介したとおり、東独文化大臣や韓国の報道団など、海外から文化庁への訪問も昨今増加しています。
○国際化の時代と言われて久しいですが、これから文化行政を進めていくうえでも、常に国際的視野を持ち続けていきたいと思えます。
○新たな年がやってまいります。どうぞ素晴らしい一年をお過ごしください。
（S）

広告の問合せ・申込み先
株式会社 きようせい 営業課
TEL.03(326)8121(代表)

「文化庁月報」十二月号
（通巻第207号）
昭和60年12月25日印刷 発行
編集 文化庁

発行所 株式会社 きようせい
〒100 東京都千代田区千代田3丁目2番2号
〒100 東京都千代田区千代田7丁目4番12号
〒100 東京都千代田区千代田5丁目5番52号
電話（03）268121（代表）
風情口 東京 九一六六一
印刷所 銀行政学会印刷所
定価 一八〇円（送料四五円）
年間購読料 二、一六〇円（送料共）